

式 辞

吾妻の山に春のいぶきを感じる本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、令和6年度卒業証書授与式を厳粛に挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

全日制課程310名、通信制課程26名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの門出を心からお祝いいたします。

通信制の皆さんは「学び」の継続を決断して入学しました。「学び」の途中、遭遇した幾多の困難を「急かず・休まず・諦めず」の精神で乗り越えてきました。どの科目を履修するか考え、スクーリングに参加し、レポートを仕上げ、テストに合格するということを積み重ねて、今日を迎えたわけです。自主的に学ぶ経験を通して、皆さんには自らを律し、粘り強くやり遂げる能力が備わりました。さらに、仲間や教師との出会い・対話によって、意識が変わり、視野が広がりました。生活体験発表会で思いを語ったり聴いたりした経験は、皆さんの自信や勇気を喚起しました。少人数の通信制課程で培った自信や勇気を胸に、これからも励んでください。

全日制の皆さんは、新生桐生高校2年目の入学生として、国語・数学といった教科の学習をしました。加えて、3年間学んだ「探究」は、本校の大きな特色です。1年生で基礎を学んだ後、「桐生学」により地域課題をみつけ、解決策を考えました。初めて開講したプログラミング講座で習得した知識を用いて課題解決を考えた人もいました。2年生では、新たな課題を考え、解決のための仮説を立て、検証・考察するという科学的な活動を行いました。そして報告書を作成したわけですが、探究活動を2回も実践する高校生は、全国でも数少ないのです。

探究はこれで終わるものではありません。「1つの正解を求める」ことが一般的な教科学習と異なり、社会やビジネスにおいては絶対的な1つの正解は大抵存在しません。仕事をするようになると、問題解決のために、チームワーク、コミュニケーション力が不可欠だと分かるはずです。探究をグループで学習した意味がそこにあります。

近年、「非認知能力」が注目されています。群馬県でも教育ビジョンの実現に向け、非認知能力の育成が行われています。非認知能力とは、米国の経済学者、ジェームズ・ヘックマンによって提唱された言葉で、学力やIQなど数値で測れる認知能力に対し、誠実性や勤勉性、自制心、物事をやり抜く力、といった数値では測れない能力とされています。全日制では、探究や学校行事、部活動などの主体的な活動を通して非認知能力を磨いてきました。通信制では、学校行事をはじめ、学習活動そのものが非認知能力を育む場でありました。

ぜひ、本校での経験を自信に変えて、チャレンジを続けてください。考えているだけでは自信はつきません。行動したからこそ自信が生まれるのです。ますます広がる世界の中で、さらに視野を広げ、新たな考えを吸収して、社会に貢献する存在となりますよう期待しています。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。今、皆様の脳裏に浮かぶのは、どんなことでしょうか。幼かった頃の笑顔でしょうか。新しい制服を着た初々しい姿でしょうか。見事に成長されました。これまでのご労苦に敬意を表します。また、本校へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、旅立ちの時が来ました。新世界で、自信をもって羽ばたいてください。そこには、あなたを受け入れてくれる存在、助けてくれる存在がきっと待っています。共に学び、喜びや悲しみを分かち合ってください。もし、不安になった時は「これでいいのだ」と考えてください。すべての出来事、存在をあるがままに前向きに肯定し、受け入れましょう。皆さんは、今のままでも代替のきかない貴重な存在なのですから。

結びに、卒業される皆さんの輝かしい未来に、幸多からんことを願って式辞といたします。